

-クロストーク- 写真で巡る日本列島の多様な植生

日本列島は南北に約3,000kmに渡って連なっている島国です。北海道から沖縄にかけて、さらに、標高によって気温や降水量が変わります。そんな気候の違いによって、植生も多種多様です。

本講座では、北から南まで、様々な植生の調査をしながら撮り続けてきた写真とともに、植生の魅力を紹介します。



(左) 鹿児島県佐多岬のソテツ群落

(中央) 和歌山県護国神社のモミズナラ林

(右) 岩手県早池峰山の蛇紋岩植生(ミヤマシ
オガマ・ミヤマアズマギク)



-クロストーク-

写真で巡る日本列島の多様な植生

植生とは、「ある場所に生育している植物の集団」を意味します。
概念の違い: ブナ → 植物、ブナ林 → 植生



太平洋側のブナ林(茨城県筑波山)

同じブナ林でも太平洋側の林床はスズタケ、日本海側ではチシマザサが覆うなど植物の種類はかなり異なります。太平洋側のブナ林は温暖化による分布の減少やシカの食害による種多様性の低下が懸念されています。



ブナの倒木跡地に咲くヤマツツジ (茨城県小川試験地)

ブナの大木が倒れ、光が地上まで降り注ぎ、ヤマツツジの花が満開に咲いた瞬間を切り取った一枚です。刻々と植物たちは動き、植生も変わっていきます。



ヒカゲヘゴ(沖縄県国頭村)

沖縄といえば、木生シダのヒカゲヘゴが有名です。ヒカゲヘゴの林は手つかずの森林に思われがちですが、実はかつて人が伐採した二次林なのです。ヒカゲヘゴは成長が早く、光のある環境を好むので、伐採跡地などで群生します。